

## ◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

### 1. 市之倉さかづき美術館【岐阜・多治見】(<https://artscape.jp/exhibitions/20535/>)

9月27日(金)～11月24日(日)

企画展:「太白焼～近代美濃のはじまり」展

美濃磁器の原点であり、出発点でもある太白焼の展覧会を開催いたします。幕末の文化年間に、瀬戸の加藤民吉が有田より染付磁器製造の技術を持ち帰り、瀬戸・美濃に瞬間に広まりました。この美濃染付の揺籃期のものを、太白焼(太白手)といい、素地は炻器土の上に白化粧を施し、呉須は山呉須を使って描き、素朴な作風となっています。この太白焼の美濃における最も古い窯元は、初代加藤幸兵衛です。その後、新製焼といわれる磁器系で透光性の高い素地に鮮やかな発色の染付へと変貌を遂げ、太白焼は自然消滅してしまいましたが、磁器製造で息を吹き返した美濃は、日本有数の陶産地として発展を遂げて行きました。まさに太白焼こそが近代美濃焼のはじまりであったのです。近年、太白焼については俄かに注目を集めており、岐阜県セラミックス研究所による成分分析と、古陶磁愛好家による研究の深まりによって、このたび 幸兵衛窯の開窯 220年記念の機会に当館で展示できる運びとなりました。太白焼の鷹揚で味わい深い魅力を再発見していただければ幸いです。



### 2 瀬戸市美術館【愛知・瀬戸】(<https://www.seto-cul.jp/archive/suke2023-4new2.pdf>)

10月5日(土)～11月24日(日)

特別企画展: 磁祖加藤民吉没後 200年事業 瀬戸市制施行 95周年記念  
瀬戸染付 一軌跡そして技と美—

本展は、瀬戸における磁器生産の開始から、国内外に広く名声を得る昭和時代初期までの染付作品を展示し、瀬戸の磁器生産の歩みやその優れた技と美を紹介するものです。また、宮内庁庭園課及び皇居三の丸尚蔵館に収蔵されている瀬戸市で製作された盆器を展示するなど、皇居を彩った日本文化の神髄とも言える名品をご覧ください。そのほか地域に残される作品や海外からの里帰を含めた約90点を展示し、瀬戸の魅力を紹介します。



### 3 戸栗美術館【東京・渋谷】(<https://toguri-museum.or.jp/about/>)

10月10日(木)～12月29日(日)

企画展: 古陶磁にあらわれる「人間模様」展

多彩な装飾が特色である江戸時代の伊万里焼(いまりやき)や、明時代の中国景德鎮(けいとくちん)窯の磁器の中で、本展では人物のモチーフに注目します。あらわされた人物は誰か、どのような背景から描かれたのか、そして、どのような人々が受容したのか。「人物文様」そのものだけではなく、当時の「人間関係」にも目を配りながら、古陶磁にまつわる「人間模様」を紐解いていきます。伊万里焼や景德鎮窯磁器を中心に、約70点の館蔵品が繰り広げる「人間模様」を覗いてみませんか。

